

7/17、梅雨明ける。 異常な暑さ、猛暑を韓国語では暴炎(ボギョム)と言うそうである。 暑暑、猛暑、強暑、酷暑、激暑、烈暑、大暑、……。 いや、はや。 そんな中、この暑さを喜ぶ野菜たちもある。

モロヘイヤ、オクラ、バナナ、マンゴー、パイナップル、パパイヤ。 サトウキビ、トウモロコシ、稲、も強い。 蓮根。 スイカもいける。 トウガン、ハヤトウリもある。 アピオス、ツルムラサキ、オカワカメ(雲南百薬草)も蔓性の仲間である。

これらを使って、耕区の南と西側に緑のカーテンを作る。 面白そうだ。 それと、千葉の農家さんで、スイカをナス、トマトの畝脇に植えて、地表の温度を下げてやるそう。 カボチャでは、葉が大きすぎるから使えない…。



7/19 練馬区の関町南3丁目農園 57区 8/1 ナス畝の南側にアピオス(蔓性)のカーテンを

ツルナ 地表に這い回るツルナ。生長が激しい。 このツルナで、地表面を冷やしてやれそうだ。ツルナは、「胃癌」に効くと言う、健康野菜だ。

畝の地表を刈草で覆う。 米・麦の藁などで覆う。 竹葉・笹葉、竹チップで覆う。 これらを使って地表を少しでも冷やしてやる。 追肥はマルチの上に置く。それでよい。 敷き藁などは、地中に入れない。地表に置くだけ。

後は「水」を撒くだけ。 「美味しくナーレ」「美味しくナーレ」と水を撒く。 ツルナを使ってみましょう。

不耕起栽培では、大シャベルで掘り返すと言うような重労働の必要はない。三角鍬でかき回すだけ。 マルチに藁をオクオク・ラクラク。それだけ。 省力・省エネなのであります。 秋冬野菜の準備で、今までのように暑い中、苦しむことは無い。

苗が準備できたら、マルチを少し押し分けて植えればそれで良い。 不耕起の畑⇒畝は、何時でも植え付けOK、移植OK。 不耕起栽培の良さである。

新しい畝作りは、三角鍬で、草削り鍬で、畝を作るのであります。 立ち位置でラク・ラクなのであります。

それにしても今年は、東京(練馬)は、雨が降りませんネ。7/30 朝 1 回の散水では間に合いません。 夕方に 2 度目の「水」を撒きに行く。

関町南 3 丁目の区民農園は、給水栓が 2 か所なので奪い合い状態にある。先客が使っておりますと気弱な方は、お帰りになる。 申し訳ないが、お待ちください。

閉栓中のカランも使えるようにしてほしい。 「水」の問題で、お互いに気まづくなりませんように。 開栓していただきたい。

畑に來れない方の耕地を見ますと、パサパサ。 野菜たちが縮む。 葉が巻きこむ。 少しの風で、「土」が舞う。 隣のお家に舞い込む。 農園隣の方は、さぞかしお困りでしょう。

畑の中央に大型のコンテナを置いて「水」を溜められるようにしたらよい。私的に大タライを置いてみたことがあるのですが、皆さん遠慮気味で、使ってもらえなかった。(去年) 区の施設として、置いてあれば、使うでありましよう

水槽の「蚊」は、メダカで防ぐ。 メダカは、繁殖力が非常に強いので、増える。 食欲旺盛でボウフラを食いつくす。 増えたメダカは、誰もが好きなだけ持ち帰る。 子どもたちが喜ぶであろう。

メダカが増えすぎましたならば、タタミイワシのようにしていただくのも良いかも…ネ。 糸井川流域では、色々と工夫して食べられていると聞く。

「蚊」の発生に目くじらを立てる方がおりますが、金魚、メダカを放てば、この問題は一挙に解決です。 メダカの産卵は、大層なものであります。金魚、フナ、メダカを放てば、この問題は解決です。 メダカの産卵は、大層なものであります。

日照と乾燥で畑が痛む。 畑の生命体が死滅する。全滅する。 植物の育成には、「水」が一番。 「光り」、「養分」、「土中の生命体のバランス」「地表の作物」「適期適作」…ナドなど、大切である。 ともかく元気・健康野菜作りで、この暑さを乗り切ろう。 暑さに負けない元気野菜を育てましょう。

元気に育った野菜には、農薬は全くいらないのであります。 防虫剤・殺菌剤は、不要なのであります。 暑さに負けない元気野菜を育てましょう。 それには、不耕起栽培、完全有機で畑を作ることが大切です。

吉田俊道先生の野菜作りと同じなのであります。「菌ちゃん農法」でやることです。

青梅街道、井草八幡先の交差点を北に折れる。 荻窪病院の方向に進む道の北側にある米屋さんで、「糠」を入手する。 戦争(第二次世界大戦) 以前からあるお米屋さんであるが、元零戦機の部品工場近く、元日産プリンスの工場近く…。とにかくそこの店で、「糠」が手に入る。 夏の間は販売を中止しています。

「麹菌」「納豆菌」「乳酸菌」「酵母菌」「放線菌」「赤色硫黄細菌」…、これらの「菌」は、どこにでもいる菌であります。いわゆる「善玉菌」を使う。 と…、肥効 8・8・8 程度の有機肥料ができる。 それと、「醗酵鶏糞」「醗酵牛糞」「籾殻燐炭」等の有機肥料で、畝を作る。 そんな畝には「菌根菌」も寄ってくる。 ミミズも寄ってくる。

我 57 区に置いた水槽のオタマジャクシが、小さなガマガエルになって、素早く飛び回る。カバ色＝枯草色をしている。 そこいらじゅうに、飛び回る。 食

欲旺盛。野菜の根元に隠れたヨトウムシを探して食う。クモもご馳走であろう。アマガエルも復活すると良いのであるが、まだいない。近くに、千川上水が流れているので、チャンスはある。

それにしても、上水の土手に生える草を刈り取りすぎる。片方の岸と交互にしてはどうであろう。アオダイショウも生き残れる思いやりが欲しい。管理が良すぎるのである。区・都の方々如何！。

水道端の交差点近く。リュウゼツランが生えていた。どなたか怪我をなされた方がおられたのでしょうか？ 刈り取られてしまった、今は無い。それと、流れの中にカキツバタ。これも刈り取られてしまった。石神井公園の沼沢地の場合、保護されて繁茂している。千川に群生し始めていたのに今は、無い。全く惜しいことだ。

近所の方が、「昭和の草花」を見つけて下さる。オシロイバナ、アキノキリンソウ、ホタルブクロ、ネコジャラシ、アカザにシロザ……。あそこで撮影したものですと、教えて下さる。善福寺井池が近い。草たちの見本園もある。色々見つけて下さり、報告いただく。草花たちを見て、思い出に耽る。

できそこないのミニスイカ。俵型の小玉で、作り易い。黄玉と網目の入った青玉。いずれも赤実。巨大になったキュウリも。ミニスイカは、白のところも齧る(かじる)。妻が嫌がる。あの白い果肉をかじる。歯周が綺麗になる。太キュウリも健康維持効果がある。水を沢山飲めなくても太キュウリなら、沢山かじ(齧)れる。ミニスイカ、美味しくいただけた。

ツルナだってそうだ。ツルナは、「家庭で使える薬になる植物」佐藤潤平 創元社にも胃癌に効くとある。で、食べてしまうヨ。少々エグイ……。が。

7/31 荻窪病院に定期健診に行く。今のところ体調はヨロシイ。そう、米屋さんによって「糠」を仕入れてきましょう。情報通のご主人に、色々お話をいただいてまいります。

ナス 強い芽を残して枝を切る。シャベルで断根。秋ナスを沢山取ることができるという。一度も成功したことが無い。

根周り 50cm 当たりを水圧で噴射、出来た穴に「ダルマ堆肥」を施す。「自家製有機肥料」を与える。と、ナスの元気回復。様子を見て、8・8・8。

インド南方のモンスーン地域で、河川の氾濫したナス畑の畝と同じい状態になっているのであろうと考える。水圧でネズミ穴が埋まる。「ダルマ堆肥」が絡む。新しい「菌根菌」も寄ってくる。ミミズたちも寄ってくる。

葉に小穴が開いていたら葉面に「灰」振りか。「お酢」撒き。「糠」振る。悪い虫は、手で取る。潰す。

トンボ、カマキリ、アオガエル、アメンボウ。みんなおいでなさい。ここの畑は薬を撒いていませんヨ、……。

インゲンマメ 去年は、モロッコインゲンが驚くほど成りました。驚掴みに掴んで、貰ってもらった程できましたから、… 驚きでした。今年はさっぱり。良く茂ってはいますが。花も良く咲いています。でも実が付かない。

暑すぎて花粉が壊れてしまうのか、モロッコの「マンズナル」の品種で無いせいか。とにかく「実」が付かない。受粉してくれる昆虫たちが、居な

くなったのか。 茂るだけ。

インゲンのトンネルは涼しい。 朝は、西側に回って、夕は東側で涼しい。「ホッ」とします。 耕作地の日陰は、助かる。 7月下旬以降は収穫「零」。強光に弱いサトイモに日陰を作る。

インゲンの原産地、中南米ではどんなものでありましょう。 若くて、元気なら、出かけて見てきたいものだ。 北米南部、中米、米南北部、南米一帯を訪ねてみたい。 日本の熱帯化に耐える野菜を探しに、訪れてみたい。

天気続きの乾燥のせいもあるでしょう。 隣畝のサトイモには十分「水」をあげているのに、まだ足りないのか……。 インゲンたちも高冷地でないとできなくなっているのか。 原因を知りたい。 何なのか。



蔓性の作物を使って日影を作る。 中央の作業路もトンネル化 インゲンも良く繁茂する



ナス 機嫌が良い

サトイモ 少々「水」不足

耕区の4隅にタンジイマジイを

8月1日(金) 台風9号、房総沖に近づく。 待ちに待った雨が、……。とにかく、大雨を期待する。 さて……。 4時、大雨降りだす。

T、

